

基準内科学

中外医学社



基準内科学

順天堂大学教授	塩川優一
旭川医科大学教授	並木正義
慶応義塾大学助教授	中村芳郎
熊本大学教授	佐藤辰男
滋賀医科大学教授	繁田幸男
福岡歯科大学教授	白井 洸
名古屋大学教授	佐竹辰夫
自治医科大学教授	高久史麿
鹿児島大学教授	井形昭弘
東京女子医科大学教授	清水喜八郎
順天堂大学助教授	林 康之
群馬大学教授	和田 攻

(執筆順)



中外医学社



1980年5月19日 上

a. 24 ~ 46

2786

登记号

分类号

1. 请爱护书籍
2. 借期已满请即归还
3. 请勿转借与他人
4. 请勿在书上批注圈点污损
5. 如需续借希将书籍带来办理手续

重庆市印刷工业公司出品

基準内科学

©

定價 10,000 円

昭和 53 年 4 月 27 日 初版 1 刷発行

昭和 53 年 9 月 20 日 初版 2 刷発行

著者代表 塩 川 優 一

発行者 青 木 三 千 雄

印刷所 凸版印刷株式会社

発行所 株式会社 中外医学社

〒162 東京都新宿区矢来町 62

電話 東京 (268) 2701 (代)

振替口座 東京 9-98814 番

DY(79) 7

基準内科学

B000720

序 言

臨床医学の中心となり基幹となるものは内科学であり、その教育の如何は医学生の将来にとって大きな影響を及ぼす。そのために以前より内科の教科書、すなわち内科書は学問において、また識見において、医師として一代の師表となる方々によってのみ書かれて来た。私事にわたるが、わたくしの恩師である呉先生、冲中先生、佐々先生、美甘先生はわれわれに御指導、御教訓を賜ると共に、おのおの心血を注いで立派な内科書を作られた。わたくしもその学徳によって今日に至ったことを心より感謝している。

ところが最近になって内科学が大きく変化し、それに伴って内科書の性格もかなり変って来たように見える。まず、他の医学領域も同じであるが、とくに内科学ではその範囲が著しく拡大し、そのために専門分化が進んだ。そのため内科医といってもかならずどの専門領域であるかを問われるようになって来た。すなわち昔は内科といえば1つと考えたが、現在では少なくとも循環器、消化器、呼吸器、血液、内分泌、代謝、神経、腎臓、膠原病及びアレルギー、感染症などの各分科における教育が必要であるとされる。そして時には同じ専門領域の中でもさらにどの病気の専門というようなことが言われる位である。細分化されることは学問の進歩にとっては必要なことであるが、一方自己の専門領域以外に口を出すのを慎しみ、時には専門以外のことを知らないのを誇る人さえ出て来た。専門は全体の一部としてはじめて意義があり、各専門の総合によってはじめて医学が存立するのであるから、全体を忘れた専門化の風潮は行過ぎというべきである。このような風潮に対する批判はすでに広く行われているのでこれ以上は述べないが、その結果、内科書を一人の偉大な内科学者が記述し、また出来上ったものを隅々迄目を通し、これを一貫した方針で完成するということは誠に困難となって来た。

つぎにこれも医学の他の領域と同じく、内科学においても年々著しい進歩がみられ、そのために膨大な情報が産生されるようになった。すなわち内科学の内容は日々に変貌；追加が行われており、昨年の知識が直ちに今日に通用するとは保証されないという現況である。ここで思い出すのは、われわれが学生であった時に聞いた話である。それを余談であるが記してみると、明治時代には大学の医学部を卒業すると大学病院の前の機械商で医療機械一式を

買って郷里へ帰った。そして教授の講義のノートと、その機械で一生悠々と医業が営めたと
いう。われわれが卒業した太平洋戦争の直前でもかなりそれに近い状況であったのである。
これはまことに天下泰平の時代の話であるが現代は御承知の通りで、われわれは烈しい情報
の波と嵐の中に辛うじて学問の最先端を見失わないように努力している小舟の船頭のような
ものである。こういう時代において新しく書かれた内科書もともすれば忽ち古い知識の残骸
に過ぎないということになる。

以上をまとめると、この変革の時代の内科書は、研究においても診療においても第一線に
立つ新進気鋭の学者の協同作業によって書かれる必要が出て来たといえる。そしてその内容
は日々に新たな内科学の現状を包含していなければならないということになる。従来のごと
く立派な装丁の、書齋に飾るに値しい内科書よりは、今日の内科の現状を読み取り、明日の
進歩に備えるという目的に使われる内科書がより広く要求されるのである。

最後に付け加えたいのは、内科書はそれだけでは内科学の習得にはまだ不充分であるとい
うことである。すなわち内科書は主として最新の知識の集積である。ところが一方、内科学
は疾病研究の学に止るものではなく、患者のための、実践の学である。従って、得られた知
識を正しく患者に適用すること迄含めてはじめて真の内科学といえる。この点はふつう内科
概論といった形で論じられ、わたくしも自分なりにこの本で内科概論を試みたが、まだ浅学
のためけっして満足とはいえないことは重々承知している。そしてさらに考えると、本当の
内科概論は内科学を学生に教育する教官が、おのおの自分の中に持っているものであるとい
える。すなわち、内科書に記載された知識を教官各人の持っている内科概論により学生に教
育することによりはじめてその内科書は完成されたといえる。言葉を換えれば内科書は内科
概論の実現のための素材に過ぎないということになる。

以上、内科書について種々述べてきた。そしてここに、このような現代の要請に応える、
第一線の学者により、最新の知識を盛った内科書を世に送ることになったのである。この本
はまず医学生の習得と知識の整理に役立つことを目標とした。とくに、医師国家試験出題基
準による索引をつけるなど、この点を考慮してある。しかしまた、時代に遅れないために、
最新の内科の現状を簡単に把握するという点で、すでに卒業し、実地に活動している医師の
卒後教育にも充分に役立つものとする。今後内容については読者の御批判を仰ぎ、時代
の変化に応じ改訂して行きたいと考えている。

終りに臨み、多忙の時間をさいて執筆して下さった共著者の方々に深謝する。

53年3月24日

著者代表 塩川 優一

目次

§ 1. 総論 (塩川優一)

1. 内科総論	2
疾患の原因	2
a. 炎症	2
b. 悪性腫瘍	2
c. 免疫	4
d. 遺伝	4
e. 老化	4
f. 医原性疾患	4
2. 診断総論	6
1. 問診と現症	6
2. 理学的検査	6
視診／打診／聴診／神経学的診察法	
3. 臨床検査の利用と解釈	6
3. 症候総論	8
1. 発熱	8
2. 胸痛	8
3. 腹痛	10
4. 頭痛	10
5. 呼吸困難	10
6. ショック	11
7. 失神	12
8. 意識障害	12
9. 浮腫	13
10. 肥満	13
11. やせ	15
12. 易疲労	16
13. 食欲不振	16
14. 皮膚病変	17

4. 治療総論	18
1. 治療法の役割	18
薬物療法／食事療法／物理療法・運動療法／精神療法／リハビリテーション／その他	
2. 治療のための手技	20
注射／洗浄・導尿／穿刺・注入／輸液・輸血／吸入	
3. 救急処置	21
心肺蘇生術／急性中毒／心臓血管／呼吸器／消化器／泌尿器／神経系	

§ 2. 消化器疾患 (並木正義・関谷千尋)

1. 総論	26
A. 消化管に関して	26
1. 口腔、咽頭および食道について	26
2. 胃について	27
a. 食物摂取と胃	27
b. 胃壁の構造	28
c. 運動機能と分泌機能	28
3. 腸について	29
a. 小腸の運動	29
b. 小腸粘膜の構造と働き	30
c. 大腸の働き	31
B. 肝・胆道・膵に関して	32
2. 胃液・十二指腸液の検査	34
A. 胃液検査	34
1. その意義と検査法の変遷	34
2. 胃液検査法の実際	34

2 目 次

3. 検査成績とその評価	35	g. 心身医学的に考慮を要する腹痛	57
B. 十二指腸液検査	35	3. 診断と検査および治療	57
3. 胃X線像の基本パターンとその読み	37	9. 悪心・嘔吐	62
1. 充満像	37	10. 吐血・下血	65
正常像／胃の変形／小彎の短縮／胃角の変形／胃の辺縁の変化		11. 便秘	70
2. 二重造影像	40	12. 下痢	73
3. 圧迫造影像	41	13. 腹部膨満	76
4. 十二指腸球部	41	1. 成因と病態	76
5. 十二指腸下行脚	41	a. 鼓腸	76
4. 腸X線像の基本パターンと読み	43	b. 腹水	77
1. 小腸	43	c. 腹部腫瘍	78
小腸の位置異常・奇形／小腸の憩室／小腸の隆起性病変／小腸の陥凹性病変		d. 肥満	78
2. 盲腸・結腸・直腸	44	e. 妊娠	78
大腸の位置異常・奇形／大腸憩室／大腸の隆起性病変／大腸の潰瘍性病変		f. 心身医学的に考慮を要する場合	78
5. 肝機能検査	46	2. 診断と治療	78
1. 肝細胞障害を反映する検査	46	14. 黄疸	79
2. 重症度の判定	48	1. 黄疸の発見	79
3. 肝炎の慢性化・硬変化	48	2. 黄疸の消長	79
4. 肝癌の診断	48	3. 黄疸時の随伴症状	79
6. 胆道X線検査	50	4. 黄疸の分類	79
7. 膵機能検査	52	5. 肝前性黄疸	80
1. 酵素学的検査	52	a. 溶血性黄疸	80
血清および尿中アマラーゼの測定／血清カタラーゼの測定		b. シェント高ビリルビン血症	80
2. 膵外分泌機能検査	52	6. 体質性黄疸	80
3. 膵内分泌機能検査	54	7. 肝細胞性黄疸	80
4. 消化吸収試験	54	8. 肝内胆汁うっ滞	80
8. 腹痛	56	9. 肝外閉塞性黄疸	83
1. 腹痛とその発生機序	56	15. 口腔、咽頭疾患	84
2. 病態からみた腹痛の分類	56	16. 食道疾患	86
a. 痙攣性腹痛	56	1. 食道の位置および形態の異常	86
b. 伸展性腹痛	56	a. 先天性の異常	86
c. 炎症性腹痛	56	b. 食道憩室	86
d. 機械的腹痛	56	c. 食道裂孔ヘルニアに伴う食道の変位変形	86
e. 血管閉塞性腹痛	56	2. 食道炎	86
f. 代謝、内分泌異常による腹痛	56	3. 食道潰瘍	88
		4. 食道腫瘍	88
		a. 食道癌	88
		b. その他の悪性腫瘍	90
		c. 良性腫瘍	90
		5. 食道静脈瘤	90
		6. 食道アカラシア	90

7. MALLORY-WEISS 症候群	91	2. 虚血性大腸炎	128
17. 胃 炎	92	3. 腸型 BEHCET	128
A. 急性胃炎	92	4. その他	128
1. 急性外因性胃炎	92	28. 大腸癌	130
a. 急性単純性胃炎	92	29. 大腸のポリーフおよびポリポージス	134
b. 急性腐蝕性胃炎	92	30. イレウス	138
2. 急性内因性胃炎	92	31. 消化管憩室	140
a. 急性感染性胃炎	92	32. 巨大結腸症	142
b. 急性化膿性胃炎	92	a. 先天性巨大結腸症	142
c. アレルギー性胃炎	92	b. 特発性巨大結腸症	142
B. 慢性胃炎	93	c. 症候性巨大結腸症	142
a. 巨大肥厚性胃炎	94	33. 過敏性大腸症候群	144
b. ひらん性胃炎	94	34. 肝 炎	148
c. 反応性リンパ細胞増殖(RLH)	94	A. 急性ウイルス性肝炎	148
18. 胃-十二指腸潰瘍	96	1. 臨床症状	148
A. 胃潰瘍	98	2. 肝機能検査	148
B. 十二指腸潰瘍	98	3. 組織所見	148
19. ZOLLINGER-ELLISON 症候群	102	4. 特殊型	148
1. 病態と臨床所見	102	a. 肝内胆汁うっ滞	148
a. 著明な胃液分泌過多と過酸症	102	b. 劇症肝炎(亜急性肝炎)	148
b. 難治性の消化性潰瘍	102	c. ルポイド肝炎	150
c. 膵の非β細胞性ラ島腫瘍	102	5. A型肝炎とB型肝炎	150
d. 他の内分泌腺腫との関係	103	B. アルコール性肝炎	150
e. 診 断	104	a. アルコール性脂肪肝	151
2. 予後と治療	104	b. アルコール性肝炎	151
20. 胃の良性隆起性病変	105	C. 慢性肝炎	151
1. 診 断	105	35. 肝硬変症	154
2. 分 類	105	肝性昏睡	158
a. 胃粘膜下腫瘍	105	36. 肝 癌	160
b. 胃型上皮(ATP)	105	1. 原発性肝癌	160
21. 胃 癌	108	2. 転移性肝癌	160
22. 胃切除後症候群	112	37. 門脈圧亢進症	164
23. 胃下垂症	114	38. 体質性黄疸	166
24. 胃神経症	118	39. 薬物性肝障害	168
25. 腸 炎	120	40. 胆道疾患	170
26. 虫垂炎	122	1. 胆石症	171
27. 潰瘍性大腸炎・CROHN 病, その他	125	2. 胆嚢炎	172
A. 潰瘍性大腸炎	125	a. 急性胆嚢炎	172
B. CROHN 病	127	b. 慢性胆嚢炎	173
C. その他鑑別を要する疾患	128	3. 胆管炎	173
1. 腸結核	128	4. 胆道ジスキネジー	173

4 目 次

5. 胆道腫瘍	173
a. 胆嚢良性腫瘍	173
b. 肝外胆管良性腫瘍	173
c. 胆嚢癌	173
d. 胆嚢肉腫・転移性胆嚢腫瘍	175
e. 胆管癌	175
f. 胆道奇形	175
g. 寄生虫	175
41. 脾臓疾患	176
1. 急性脾炎	176
2. 慢性脾炎	178
3. 脾 癌	178
4. インスリノーマ	178
5. ZOLLINGER-ELLISON 症候群	179
6. WDHA 症候群	179
7. 脾嚢胞	179
8. 脾膿瘍	179
9. その他	179
42. 腹膜疾患	180
A. 炎症性疾患	180
1. 急性腹膜炎	180
a. 急性汎発性腹膜炎	180
b. 急性限局性腹膜炎	180
2. 慢性腹膜炎	181
a. 慢性限局性腹膜炎	182
b. 結核性腹膜炎	182
B. 腫瘍性疾患	184
a. 腹膜の良性腫瘍	184
b. 腹膜の悪性腫瘍	184
§ 3. 循環器疾患 〈中村芳郎〉	
1. 総 論	186
心疾患重症度の判定	186
2. 心電図の基本パターンと読み	188
1. P 波	188
2. QRS 波形群	190
3. ST-T の変化	196
3. 心音図の基本パターンと読み	200
1. I 音の変化	200
2. II 音の変化	200
3. III 音の亢進	200

4. IV 音の亢進	200
5. 過剰心音	200
6. 収縮期雑音	202
7. 拡張期雑音	202
8. 連続性雑音	203
9. ブランコ雑音	203
10. 血管雑音	203
11. 心膜摩擦音	203
4. 心臓 X 線像の基本パターンと読み	204
1. 心臓陰影	204
2. 肺高血圧症の所見	208
3. 心血管造影法	208
5. 動悸(心悸亢進)	210
動悸の型	210
6. ショック症状	212
7. 不整脈	214
1. 頻拍型不整脈	214
a. 洞性頻脈	214
b. 発作性心房頻拍	214
c. 心房粗動	214
d. 心房細動	216
e. 心室頻拍	216
2. 心拍不整を主徴とするもの	217
a. 洞性不整脈	217
b. 心房性期外収縮	217
c. 房室結節性期外収縮	218
d. 心室性期外収縮	218
e. 副調律	218
3. 徐拍型不整脈	218
a. 洞房ブロック	218
b. 房室ブロック	218
c. 洞性徐脈	222
4. 不整脈に関係ある症候群	222
a. W-P-W 症候群	222
b. L-G-L 症候群	223
c. sick sinus syndrome	223
d. STOKES-ADAMS 症候群	224
5. 不整脈の特殊治療	224
a. 電気除細動	224
b. 人工ペースメーカー	224

6. 不整脈の特殊診断法	225	6. EISENMENGER 症候群	242
a. HIS 索心電図	225	7. FALLOT 四徴症	242
b. HOLTER 心電図	225	8. 動脈管開存症	244
8. 心不全	226	9. EBSTEIN 奇形	244
1. 心筋機能障害	226	10. 後天性弁膜疾患	246
2. 心室機能曲線	226	1. 僧帽弁狭窄症	246
3. 左心不全と右心不全	226	2. 僧帽弁閉鎖不全症	248
4. 左室不全の診断	227	3. 大動脈弁狭窄症	250
5. 右室不全の診断	228	4. 大動脈弁閉鎖不全症	251
6. 心不全の誘因	228	5. 三尖弁狭窄症	252
7. 心不全によるうっ血の生成機構	228	6. 三尖弁閉鎖不全症	254
8. 心不全を治療する前に検討すべきこと	228	A. リウマチ熱	254
9. 心不全の治療	228	B. 細菌性心内膜炎	256
a. ジギタリス療法	228	11. 虚血性心疾患	258
b. 利尿剤による療法	228	1. 労作性狭心症	258
10. 肺水腫の治療	228	2. 中間型症候群	260
11. 心不全患者の食餌と日常生活	229	3. 心筋梗塞	262
9. 先天性心疾患	230	A. 心筋梗塞後症候群	266
基礎事項	230	B. 肩-手症候群	266
1. 発 生	230	12. 心膜疾患	268
2. 胎児循環および生下時にみられる血行動態の変化	230	1. 急性心膜炎	268
3. 短 絡	232	2. 慢性収縮性心膜炎	270
4. チアノーゼ	233	3. 慢性(心膜液)貯留性心膜炎	270
5. 赤血球増多症	233	4. その他の心膜疾患	270
各 論	233	13. 心筋疾患	272
1. 心臓および大血管の位置異常	234	1. 心筋炎	272
2. 左室流出路の狭窄をきたす疾患	234	2. 心筋症	272
a. 弁性大動脈狭窄症	236	a. うっ血型心筋症	272
b. 弁下部大動脈狭窄症	236	b. 肥大型心筋症	274
c. 弁上部大動脈狭窄症	236	14. 高血圧症・低血圧症	276
d. 特発性肥厚性大動脈弁下部狭窄症	236	A. 高血圧症	276
3. 右室流出路の狭窄をきたす疾患	236	1. ルチン検査	278
a. 弁性肺動脈狭窄症	236	2. 悪性高血圧	278
b. 末梢肺動脈狭窄症	238	3. 本態性高血圧の経過	278
4. 心房中隔欠損症	238	4. 降圧治療法の意義	278
a. 二次孔心房中隔欠損症	238	5. 本態性高血圧症の治療	279
b. 一次孔心房中隔欠損症	240	B. 低血圧症	280
5. 心室中隔欠損症	240	1. 起立性低血圧	280
		2. 本態性低血圧	280
		15. 動脈硬化症	282
		粥状硬化が臨床的意義をもつ動脈	282

6 目 次

16. 大動脈瘤	286
17. 解離性大動脈瘤	288
18. 大動脈炎症候群その他の大動脈疾患	290
1. 大動脈炎症候群	290
2. LERICHE 症候群	290
3. saddle embolus	290
19. 末梢動脈疾患と静脈疾患	292
1. 閉塞性動脈硬化症	292
2. BUERGER 病, 閉塞性血栓性血管炎	292
3. RAYNAUD 病	292
4. 上大静脈症候群	292
5. 血栓性静脈炎	292

§ 4. 内分泌疾患

(佐藤辰男)

1. 総 論	296
1. 内分泌腺およびホルモン	296
2. ホルモンの分泌調節および作用機序	296
3. 内分泌疾患	296
2. 下垂体の検査	300
1. 前葉機能検査	300
a. 甲状腺刺激ホルモン系	300
b. 副腎皮質刺激ホルモン系	300
c. 性腺刺激ホルモン系	300
d. 成長ホルモン系	302
2. 後葉機能検査	302
3. 甲状腺の検査	304
1. 血中甲状腺ホルモンの測定	304
2. 甲状腺ヨード代謝より	304
3. 代謝面より	306
4. 視床下部・下垂体・甲状腺系より	306
5. 免疫学的検査	306
6. その他	306
4. 副甲状腺の検査	308
a. 血中 PTH の測定	308
b. Ca および P の測定	308
c. P の再吸収率測定	308
d. カルシウム負荷試験	308
e. EDTA 試験	308
f. ELLSWORTH-HOWARD 試験	308
g. その他	308

5. 副腎皮質の検査	310
a. 血中ステロイドの測定	310
b. 尿中代謝産物の測定	310
c. 血漿 ACTH 測定	310
d. 負荷試験	310
e. 血漿レニン活性の測定	310
f. その他	310
6. 副腎髄質の検査	312
a. カテコールアミンおよび代謝産物の測定	312
b. 薬物試験	312
c. その他	312
7. 視床下部, 下垂体疾患	314
1. 視床下部疾患	314
a. FRÖHLICH 症候群	314
b. LAURENCE-MOON-BIEDL 症候群	314
2. 下垂体前葉疾患	314
a. 下垂体前葉機能亢進症	314
b. 下垂体前葉機能低下症	316
付. 神経性食思不振症	318
3. 下垂体後葉疾患	318
a. 尿崩症	318
b. ADH 分泌異常症	320
c. オキシトシンの過剰, もしくは欠乏	320
8. 甲状腺疾患	322
1. 甲状腺機能亢進症	322
BASEDOW 病または GRAVES 病 / PLUMMER 病	
2. 甲状腺機能低下症	324
a. 原発性甲状腺機能低下症	
または成人型粘液水腫	324
b. クレチン病	326
付. 粘液水腫クリーゼ	326
3. 単純性甲状腺腫	326
4. 甲状腺の炎症	327
a. 亜急性甲状腺炎	327
b. 慢性甲状腺炎	328
5. 甲状腺の腫瘍	328
9. 副甲状腺疾患	330

1. 副甲状腺機能亢進症	330
a. 原発性副甲状腺機能亢進症	330
b. 続発性副甲状腺機能亢進症	330
2. 副甲状腺機能低下症	330
a. 特発性および続発性副甲状腺機能低下症	330
b. 仮性副甲状腺機能低下症	332
10. 副腎疾患	334
1. 副腎皮質疾患	334
a. 副腎皮質機能低下症	334
b. 副腎皮質機能亢進症	334
2. 副腎髄質疾患	340
a. 褐色細胞腫	340
b. 交感神経芽細胞腫	342
§ 5. 代謝疾患	〈繁田幸男・七里元亮〉
1. 総論	346
1. 糖質代謝	346
2. 脂質代謝	346
3. 蛋白質代謝	346
2. 代謝系の検査	348
1. ブドウ糖負荷試験 (GTT)	348
2. 低血糖症の検査	348
3. 非ブドウ糖尿	348
4. ケトーシスの検査	350
5. 高脂血症の検査	350
6. 病的アミノ酸尿	350
3. 肥満とやせ	352
1. 単純性肥満と症候性肥満	352
2. 症候性肥満の主な症候	352
3. やせ	352
4. 糖尿病	354
1. 定義と分類	354
2. 病期と進展	354
3. 診断基準	354
4. 合併症	354
5. 糖尿病性腎症	356
6. 治療によるコントロール基準	356
7. 食事療法	356
8. 内服血糖降下剤	356
9. インスリン療法	358

10. 糖尿病性昏睡	358
11. 低血糖症	358
12. 糖原病	358
5. 脂質代謝異常・高脂血症	360
1. 家族性高脂血症	360
2. fat-induced hyperlipemia	360
3. carbohydrate-induced hyperlipemia	360
4. 糖尿病と高脂血症	362
5. 高脂血症と動脈硬化症	362
6. リビドーシス	362
6. 蛋白質, アミノ酸代謝異常	364
1. フェニールアラニン代謝異常	364
a. フェニールケトン尿症	364
b. チロジン症	364
c. アルカプトン尿症	364
2. 含硫アミノ酸代謝異常	364
a. ホモシスチン尿症	364
b. シスタチオニン尿症	364
7. 尿酸代謝異常・痛風	366
1. ブリン代謝経路	366
2. 高尿酸血症の病態	366
3. 発作の誘因	366
4. 臨床	366
a. 急性痛風発作	368
b. 慢性痛風	368
c. 痛風腎	368
5. 診断・鑑別診断	368
6. 病 因	368
7. 治 療	369
8. LESCH-NYHAN 症候群	369
9. 仮性痛風	369
8. ボルフィリン症	370
1. ボルフィリン代謝	370
2. ボルフィリン症の臨床	370
3. ボルフィリン体, ボルフォビリノーゲン検出法	370
4. 治 療	370
5. ボルフィリン尿症	370
9. ビタミン欠乏症	372
1. 主なビタミン欠乏症	372

2. ビタミン依存症	372
3. ビタミン過剰症	373
§ 6. 腎, 泌尿器疾患・水-電解質異常	
〈白井 洸〉	
1. 総 論	376
1. 腎の解剖	376
a. 腎の位置	376
b. 腎の肉眼的所見	376
c. ネフロン構造	376
d. 腎糸球体の構造	377
e. 尿細管の構造	377
f. 傍糸球体装置	378
g. 腎の血管	378
h. 腎の神経	378
2. 腎の生理	378
a. 尿の生成	378
b. 尿細管再吸収および分泌	380
c. 尿濃縮と対向流機構	380
d. 腎循環	380
e. 腎の酸-塩基平衡	380
f. 腎の内分泌およびビタミンなど	380
2. 腎機能検査	382
1. 腎クリアランス法	382
a. 糸球体濾過値	382
b. 腎血漿流量	382
c. 濾過率 (FF)	382
d. 尿細管再吸収極量 (Tmg) および 尿細管最大分泌量 (Tm PAH)	384
2. PSP 排泄試験	384
3. 尿濃縮試験	384
4. 尿稀釈試験	384
5. レノグラムおよび腎シンチグラム	384
6. 血中尿素および血中クレアチニン 濃度	384
血中尿素窒素 (BUN)	384
7. 左右別腎機能検査法	386
8. 腎の病態と各種腎機能	386
3. 腎の X 線学的検査・腎生検法およびその他 の検査法	388
1. 検査法の種類とその特徴	388

2. 腎の大きさと腎機能	388
3. 腎生検	389
4. 内視鏡的検査	389
4. 蛋白尿	390
1. 定 義	390
2. 排泄の機序	390
3. 分 類	390
4. 蛋白尿の蛋白分画	390
5. 尿細管性蛋白尿	390
6. 蛋白尿の程度と腎疾患	390
5. 血尿・膿尿・細菌尿・乳び尿	392
6. 尿沈渣	394
7. 尿量の異常	396
1. 多 尿	396
2. 乏 尿	396
8. 浮 腫	398
1. 全身性浮腫	398
2. 局所性浮腫	398
9. 高血圧	400
1. 発生機序	400
2. レニン-アンジオテンシン系	400
3. 高血圧の原因となる腎疾患	400
10. 腎不全	402
1. 急性腎不全	402
2. 急性尿細管壊死	402
3. 慢性腎不全	404
4. 人工透析療法	404
5. 透析を行う時期	406
6. 腎移植	406
11. ネフローゼ症候群	408
12. 腎 炎	412
1. 腎糸球体を障害する機序	412
2. 溶連菌感染後急性糸球体腎炎	414
3. 急速に進展する糸球体腎炎	416
4. 慢性びまん性糸球体腎炎	416
5. 全身性ループスエリテマトーデス の腎	418
6. HENOCHE-SCHÖNLEIN 紫斑病の腎	418
7. GOODPASTURE 症候群	418
8. 巣状糸球体腎炎	418

13. 腎盂腎炎・腎膿瘍・腎結核および 間質性腎炎	420
1. 腎盂腎炎の概要	420
2. 急性腎盂腎炎	420
3. 慢性腎盂腎炎	421
4. 腎膿瘍	422
5. 腎結核	424
6. 間質性腎炎	424
14. 腎の循環障害	426
1. 動脈硬化性腎硬化症および老人性 腎硬化症	426
2. 腎血管性高血圧症	426
3. 腎梗塞	426
4. 腎静脈血栓症	427
15. 代謝性疾患	428
1. 糖尿病性腎障害	428
2. 痛風と腎	428
3. 全身性アミロイド症の腎	428
16. 妊娠と腎	430
1. 正常妊婦の腎	430
2. 妊娠と腎疾患	430
3. 妊娠に特有でない腎疾患	430
4. 妊娠と糸球体腎炎	430
17. 腎, 尿路結石および水腎症	432
1. 腎結石	432
2. 尿管結石	432
3. 膀胱結石	434
4. 水腎症	434
18. 遺伝性腎疾患および尿路の先天性異常	436
1. 多嚢胞腎	436
2. 先天性ネフローゼ症候群	436
3. 神経性難聴を伴う遺伝性腎炎	436
4. 腎性尿崩症	436
5. 原発性高尿酸血症	436
6. シスチン尿症	436
7. HARTNAP 病	436
8. ガラクトーゼ血症	438
9. WILSON または肝レンズ変性	438
10. ビタミンD抵抗性クル病	438
11. シスチン症	438
12. LOWE 症候群または眼-脳-腎症候群	438
13. FABRY 病	438
14. 原発性腎尿管アンドーシス 付. FANCONI 症候群	438
15. 尿路の先天性異常	439

19. 腎の腫瘍	440
1. 腎の腫瘍の種類	440
2. 腎 癌	440
3. 腎盂腎杯の腫瘍	442
4. WILMS 腫瘍	442
20. 治療総論	443
1. 腎疾患の治療の原則	443
21. 水-電解質異常および輸液	444
1. 水-電解質異常を考える基礎的 事項	444
2. 水-電解質の出納	446
3. 水-電解質の異常状態	446
a. 水およびナトリウムの異常	446
b. 低カルシウム血症・高カルシウム 血症	448
4. 輸 液	448
22. 腎と薬物	452
a. 抗生物質および化学療法による 薬物中毒	452
b. 抗生物質の腎よりの排泄	452
c. 有機化合物による中毒	452
d. 無機物による中毒	452

§ 7. 呼吸器疾患

〈佐竹辰夫・龍華一男・高木健三・原 通広〉

1. 総 論	456
1. 肺・気管支の解剖	456
2. 肺の機能	456
3. 肺の防御機構	458
4. 疫学的事項からみた呼吸器疾患の 変遷	458
2. 胸部X線像の基本パターンとその読み	460
1. 胸部X線診断	460
2. 胸部X線所見	460
3. 呼吸機能検査とその読み	466
1. 換気力学の原理	466
2. スパイログラフィー	466
3. 僧帽弁狭窄症における重症度と 換気力学諸量の変化	470
4. 肺拡散能力の検査	470
5. 呼吸不全とその評価	470
4. 咳と痰	474
5. 血痰・喀血	478
6. 呼吸困難	480
付. 特異的なパターンを示す異常呼吸	482
a. CHEYNE-STOKES 型呼吸	482
b. BIOT 型呼吸	482
c. KUSSMAUL 型呼吸	482

7. 胸部の疼痛	484	34. 薬剤による肺疾患	570
8. かぜ症候群・インフルエンザ	486	1. 間質性肺炎・肺線維症	570
9. 急性気管支炎・急性細気管支炎	490	2. 気道閉塞	570
10. 肺炎・肺膿瘍	492	3. 肺塞栓	570
I. 肺炎	492	4. 肺水腫	570
A. 細菌性肺炎	492	5. PIE 症候群	570
B. マイコプラズマ肺炎	494	6. SLE その他自己免疫疾患様の 肺病変	570
C. 真菌性肺炎	495	7. 肺の opportunistic infection	570
II. 肺膿瘍	496	8. 肺表面活性阻害	571
11. 肺結核症	498	9. 薬剤逆効果による急性低酸素血症	571
12. 非定型抗酸菌症	504	35. 全身性系統疾患の肺病変	572
13. 寄生虫性肺疾患	506	1. 膠原病の肺病変	572
A. 肺吸虫症・肺シストマ症	506	2. 血液疾患（白血病・悪性リンパ腫） の肺病変	572
B. <i>Pneumocystis carinii</i> 肺炎	508	a. 白血病	572
C. 肺アメーバ症	508	b. 悪性リンパ腫	572
D. 肺トキソプラズマ症	508	3. 神経、筋疾患	572
E. 肺包虫症	509	36. 自然気胸	574
14. 慢性閉塞性肺疾患	510	37. 胸膜炎・膿胸	576
付. 慢性びまん性汎細気管支炎	512	I. 胸膜炎	576
15. 慢性気管支炎	514	A. 結核性胸膜炎	576
16. 慢性肺気腫	516	B. 続発性胸膜炎	578
付. 老人肺	518	a. 癌性胸膜炎	578
17. 気管支喘息	520	b. うっ血性心不全	578
18. 気管支拡張症	524	c. 肺炎後胸膜炎	578
19. 肺囊胞症	526	d. 膠原病	578
付. 囊胞性線維症	526	e. 肺梗塞	578
20. 無気肺	528	f. 低蛋白血症	578
21. 中葉症候群	530	g. その他	578
22. びまん性間質性肺炎および肺線維症	532	II. 膿 胸	579
23. 塵肺症	536	付. 胸膜の中皮腫	579
24. サルコイドーシス	538	38. 縦隔疾患	580
25. 肺の新生物, とくに気管支癌	542	A. 縦隔腫瘍	580
肺胞上皮癌と気管支腺腫	548	B. 縦隔炎	580
a. 肺胞上皮癌	548	C. 縦隔気腫	580
b. 気管支腺腫	548	D. 縦隔偏位と縦隔ヘルニア	580
26. 肺塞栓症・肺梗塞症	550	39. 横隔膜疾患	582
27. 肺水腫	552	A. 間代性痙攣（吃逆）	582
28. 原発性肺高圧症	556	B. 横隔膜偏位	582
29. 慢性肺性心	558	C. 横隔膜麻痺	582
30. PIE 症候群	562		
31. GOODPASTURE 症候群	564		
32. WEGENER 肉芽腫症	566		
33. 肺胞蛋白症	568		
付. 肺胞微石症	569		

373	D. 横隔膜下膿瘍	582
373	E. 横隔膜ヘルニア	582
373	a. 非外傷性横隔膜ヘルニア	582
373	b. 外傷性横隔膜ヘルニア	583
40	過換気症候群	584
41	大気汚染とくに光化学スモッグによる 急性呼吸器障害	586
42	肺性脳症	588
	付. Pickwick 症候群	590
43	慢性呼吸不全の治療とくに酸素療法	592
388	1. 適応	592
388	2. O ₂ 療法の限界	592
388	3. O ₂ 吸入の効果と方法	592
388	a. 鼻カテーテル法	592
388	b. MC マスク	593
388	c. Venti マスク	593
388	d. 機械呼吸	594
388	e. 携帯用固体 O ₂ 発生器	594
44	酸-塩基調節異常 (呼吸不全) における電解質異常	594
388	5. O ₂ 療法の注意事項	594
388	6. 原因・誘因の除去	594
388	7. 代償期の管理	595
388	付. 成人呼吸窮迫症候群	595

§ 8. 血液, 造血器疾患 〈高久史磨〉

1	総論	598
388	1. 血球と血漿	598
388	2. 血球の産生	598
388	3. 血漿蛋白	598
388	4. 凝固因子	598
1	血液細胞の基本パターンとその意味	600
388	1. 血球の分化と成熟	600
388	2. 血球の機能とカイネティクス	602
1	血液検査	606
388	1. 血球数の算定	606
388	2. 末梢血の塗抹標本	606
388	a. 赤血球の形態	606
388	b. 白血球の形態と百分比	608
388	c. その他	608
388	3. 骨髓像	608

388	4. 血液の生化学的検査	609
388	5. 免疫学的検査	610
388	6. 止血に関する検査	610
4	貧血	612
5	出血傾向	614
388	1. 発生機序	614
388	2. 症状	614
388	3. 鑑別	614
388	4. 治療	614
388	a. 血管の異常	614
388	b. 血小板の異常	614
388	c. 凝固因子の異常	614
388	d. 線維素溶解の亢進	616
6	リンパ節腫大	618
7	鉄欠乏性貧血	622
8	鉄芽球性貧血	626
9	悪性貧血	628
10	再生不良性貧血	632
388	a. 赤芽球癆	634
388	b. 二次性貧血	635
11	溶血性貧血	636
388	a. 先天性球状赤血球症 (HS)	637
388	b. 先天性橢円赤血球症	638
388	c. 発作性夜間血色素尿症 (PNH)	638
388	d. ヘモグロビンの異常による 溶血	638
388	e. 赤血球酵素の異常による溶血	638
388	f. 同種抗体による溶血性貧血	640
388	g. 自己抗体による溶血性貧血	641
388	h. 薬剤による溶血	642
388	i. 血管の障害による溶血性貧血	642
12	多血症	644
388	a. ストレス多血症	644
388	b. 真性多血症	644
388	c. エリトロポエチン産生腫瘍	645
388	d. 家族性赤血球増加症	645
13	白血病と類縁疾患	646
388	a. 急性白血病	647
388	b. 赤白血病	648
388	c. 急性前骨髄球性白血病	648
388	d. 慢性骨髄性白血病 (CML)	648

e. 慢性リンパ性白血病	650
f. 骨髓線維症	652
14. 悪性リンパ腫	654
1. 非 HODGKIN リンパ腫	654
2. HODGKIN 病	655
15. 骨髓腫と類縁疾患	658
1. 多発性骨髓腫	658
2. 原発性マクログロブリン血症	660
3. H鎖病	661
16. BANTI 症候群	662
17. ヘモグロビンの異常	664
A. ヘモグロビンの先天的異常	664
1. 異常ヘモグロビン症	664
a. 鎌状赤血球貧血	664
b. 不安定ヘモグロビン症	665
c. 酸素親和性が異常なヘモグロビン	665
d. ヘモグロビンM症	666
2. タラセミア	666
B. ヘモグロビンの後天的異常	668
1. 一酸化炭素ヘモグロビン血症	668
2. メトヘモグロビン血症	668
3. スルフヘモグロビン血症	669
18. 紫斑病	670
1. 血小板減少性紫斑病	670
a. 本態性血小板減少性紫斑病 (ITP)	670
b. 薬剤による血小板減少症	671
c. 輸血後紫斑病	671
2. 血小板の機能異常による紫斑病	671
a. 血小板無力症	672
b. 一次性 ADP 遊離機能不全	672
c. 後天性獲得性血小板機能異常	672
19. 凝固因子欠乏症	674
A. 先天的異常	674
1. 血友病AおよびB	674
2. VON WILLEBRAND 病	676
3. その他の凝固因子の欠如	676
a. 第Ⅺ因子 (PAT) 欠損症	676
b. 第Ⅻ因子 (HAGEMAN 因子) 欠損症	676

c. 外因系凝固反応異常	676
d. 第Ⅻ因子欠如	676
B. 後天的異常	676
1. ビタミンK欠乏	676
2. 肝疾患	676
3. 播種性血管内凝固	677
4. 循環抗凝固因子	678

§ 9. 神経疾患

〈井形昭弘〉

1. 総 論	682
神経系の特徴	682
2. 神経のみかた	683
1. 精神状態の把握	683
2. 脳神経のみかた	683
3. 反 射	686
4. 運動障害の検査法	688
5. 知覚障害のみかた	688
3. 髄液検査	690
採取方法／主な実施の目的	
／主な禁忌／検査所見	
4. 脳波の基本パターンと読み	692
1. 検査法	692
導出法／賦活法	
2. 正常脳波	692
3. 異常脳波	693
a. てんかん	693
b. 脳腫瘍	693
c. 脳血管障害	698
d. 脳外傷	698
e. その他	698
4. 診断上の注意	698
5. 筋電図の基本パターンと読み	700
1. 正常筋電図	700
a. 安静時放電	700
b. 随意収縮時放電	700
2. 異常筋電図	700
a. 安静時異常放電	700
b. 随意収縮にみられる異常筋電図	700
3. 誘発筋電図	702
6. 脳血管写の基本像と読み	704